

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3070101914		
法人名	社会福祉法人 安原福祉会		
事業所名	あいの里 グループホーム2F		
所在地	和歌山県 和歌山市 相坂651-3		
自己評価作成日	平成28年5月10日	評価結果市町村受理日	平成28年8月26日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kairokensaku.jp/30/index.php?action_kouhyou_detail_2015_022_kani=true&amp;Jigvsoyocd=3070101914-00&amp;PrefCd=30&amp;VersionCd=022">http://www.kairokensaku.jp/30/index.php?action_kouhyou_detail_2015_022_kani=true&amp;Jigvsoyocd=3070101914-00&amp;PrefCd=30&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 市民生活総合サポートセンター
所在地	〒530-0041 大阪市北区天神橋2丁目4番17号 千代田第1ビル
訪問調査日	平成28年6月29日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

事業所が特に力を入れていることは、入居者様と家族の方々の満足感の確保を図る事です。入居者様本意は勿論のことですが、ユニットが掲げている理念「笑顔あふれる、あなたが主役」というように、入居者様の笑顔が沢山見られたり、楽しいと思っただけのような機会を作り、職員も関わりの中で、生活のお手伝いをさせていただいているという気持ちを忘れず、本当の孫や娘、息子の気持ちになって支援行っています。そして事業所内の力だけでなく、医療機関や家族、地域の方々との連携を深め合いながら支援しています。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	当法人の理念を掲示し、ユニットの理念も作成、ユニットの職員同士で日々話し合い目指す介護について統一を行っている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩、買い物、ゴミ捨て等で外出すると、地域の皆さまとの挨拶、立ち話をして、馴染みの関係作りを行っています。神社のもち拾いに参加したり、地区の公民館に入居者様が作った作品を出展したりしている。小学生との交流・中学生の体験実習、通学路でもあるため、声を掛けあいさつを交し地域交流を図っている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	秋祭りなど、地域の方が参加してもらえるよう声を掛け、慰問などにも呼び掛けている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヵ月に1回、民生委員、地域包括センター、入居者家族で会議を実施している。利用者さんの近況や活動報告を行い、現在取り組んでいる事実について相談し、色々の情報をもらいサービス向上に活かしている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市役所・地域包括センターと連携を取り ケア中でのトラブルや実践について報告し、助言をいただくことで行政との透明化を図っている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないケアを心掛け、外部研修で知識を身につけそれを内部評価をおこない理解を得ている。玄関には出入りを感じするメロディー音を設置している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部研修を受けた職員が内部研修で発表をおこない、全職員が虐待防止について学ぶことが出来る。防犯カメラを設置し、虐待防止に役立っている。		

あいの里 2階

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部研修に参加した職員が、それぞれユニットで発表を行い、支援に繋げています。成年後見制度については、現在利用されている職員がいません。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前に家族様に説明を行い、理解して頂いています。家族様の方から質問等あった場合、十分に理解して頂けるよう説明を行い、納得した上で入所して頂けるようにしています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	訪問時や家族会を開いて、常にご意見等なんでも言っていただけるような雰囲気作りを心掛けています。要望等あった場合、職員で話し合い、反映しています。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	現場でのトラブル、スタッフの不満、入居者様に関する介護での不安や、家族様の要望等は、管理者、副管理者を通じ聞き出し、ユニット全体で相談、解決に努めている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者及び幹部が現場に来ており、入居者様と過ごしたり、職員の業務の悩み等把握している。資格所得に向けた支援を行い、本人の意向を重視しながら職場内で活かせる労働環境づくりに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修に多くの職員が受講し、研修報告は社内研修で全職員に報告、研修報告書は、全職員が閲覧できるようにしている。新人職員にはマンツーマン体制行い丁寧な指導を実施している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修や県の認知症支援協会の研修会等に参加する事で関連事業所等との交流を持ち、社内研修で全職員に発表、相談、サービスの質の向上を目指している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面接で生活状態を把握するよう努め、新しい環境に慣れて頂けるよう、関係づくりの為に時間を作り、安心感を得て頂けるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族様が今まで困っていたことを理解し、頻りに連絡を取り合い、不安や困っている事等を共感し、今後についてしっかり要望等を聞き、信頼関係構築に役立てています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居者様、事前訪問時等、本人家族の想いを確認し、日々の支援の中での入居者様の要望、頻りに家族様と連絡行い、信頼関係構築に役立て、サービスに役立てるよう支援している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者様が人生の先輩であるという考え方を共有し、職員も一人の家族とし娘や孫のような気持ちになり、共に過ごし学び、支え合い暮らしています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族様の思いに寄り添いながら、日々の暮らしの中での出来事や気づきの情報共有に努めています。家族様が自由に訪問に来れる様な雰囲気作りを心掛けています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族様だけではなく、入居者様の友人、知人等が面会に来られた時は、居室にてゆっくりを過ごして頂いたり、家族様了解のもと、入居者様の一緒に外出されたりしている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	皆さん楽しく過ごす時間を持ち、入居者様同士の関係が上手く行くように、職員が調整役になり支援している。常に職員が入るのではなく入居者様同士だけの関わりも大切にしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了になっても、支援が継続的におこなえるよう、施設、病院の紹介等家族の方が安心して生活出来るよう支援と相談に取り組んでいる。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者様との日々の関わりの中で表情や、声を掛け要望・希望を聞き取ったり、生活歴や意向を把握している。意思疎通が困難な方には、家族様や関係者から情報を得るようにしている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の面会時に入居者様本人のお宅に伺ったり、生活歴や生活環境、サービス利用の経緯の把握に努め、担当の介護支援専門員から等、情報収集し職員間で情報を共有している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	センサー方式等を取り入れ、入居者様一人ひとりの生活リズムを理解し、それぞれ個々に合った支援方法を皆で話し合い、挑戦し本人の出来ること、出来ないことを把握する。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	会議を定期的に関き、入居者様一人ひとりの介護の課題を職位全員で話し合いケアに繋げ、家族様面会や家族会時に会話行い、職員全体で意見交換行い、本当のニーズを理解し介護計画に繋げている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	食事・水分量、排泄等、身体的状況、日々の暮らしの中の様子や気づきを記録に残し、職員全員が閲覧出来る様にしており、勤務開始前と昼食後に申し送り義務つけている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	予定日以外の外出、外泊、通院時の送迎等必要な支援場合などは家族様の状況や要望に合わせて臨機応変に対応している。		

あいの里 2階

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議開き、自治体の方や地域包括支援センターの支援員が参加し、支援に関する情報交換、協力関係を築いている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	事業所に協力医があり往診して下さっていますが、家族様や入居者様が希望する場合は、協力医以外のかかりつけ医に往診や受診お願ひし、通院時には職員同行し、普段の様子や変化を伝えている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療申し送り帳を作り、医療面で気づいた事、疑問記録行い、訪問看護ステーションとの契約行い、看護師さんが来られた時や電話相談などで、健康管理や医療面での相談、助言対応行ってもらっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、本人の日頃の様子や支援方法を医療機関に提供行い、家族様や入院病院の職員に、回復状況や本人様の様子を聞き、退院後の支援に結び付けている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居者様や家族の意向を踏まえ、重度化に伴う意志確認書を作成、支援について説明行い、家族様、医師、職員が連携を取り、安心して最期を迎えられる様、頻繁に連絡取り合い支、相互に納得し、事業所が出来る最大の支援に取り組んでいる。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員は、救急手当や蘇生術の講習を受講し対応方法を学んでいる。夜勤時や緊急時対応について、マニュアル化し、周知徹底を図っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、消防署との協力を得て、利用者様と共に避難訓練行っている。運営推進会議や自治体に協力体制を呼び掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	本人の気持ちを尊重し、排泄、入浴、更衣時等、支援が必要な時も、さりげない支援、自己決定しやすい声掛け等を心掛けている。声掛けがおかしい等思った時は、職員注意し合い、声を掛け合っている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員同士の入居者様についての情報交換を行い個々に合わせた声掛けを行っている。どんなことでも話し合える信頼関係を作れるよう職員支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者個々のペースにあった支援ができるようにスタッフ全員で連携を図っている。入所者の混乱など、状態に合わせ本人が安心して過ごせるように声掛けを実践している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問理容師を利用されたり、美容院まで外出される利用者様もいます。ヘアスタイルも入居者様や家族様の希望に合わせています。衣服等も本人や家族様の希望を聞き、TPOに合わせて職員と一緒に選ぶ様にしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	買い物、調理、盛り付け、後片付けなど出来る範囲で共に行い、一緒に作業をおこなっています。職員と利用者様が同じテーブルを囲み、楽しく食事出来るような雰囲気作りを心掛けている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者様と相談しながら、栄養面を考えながらその日のメニューを当日に決めています。主治医に個別で補助食出して頂いていたり、刻み食やミキサー食の入居者様もいますが、好きな物を本人様や家族様に聞いたり、食べやすいものを出すようにしています。水分量は水分チェックシートを使い支援に繋げています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	入居者の自立度・口腔の状態に合わせて対応している。就寝前は義歯の洗浄を行い、希望の入居者様には、訪問で歯科医の先生に往診していただいている。		

あいの里 2階

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを記録し、プライバシーにも配慮行いながら、声掛け、誘導し、排泄介助、見守り等を行っている。排泄チェック表を使用している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事内容を工夫したり、水分を多くとって頂くように支援、声掛け、水分チェック表を使用し、水分摂取量の把握、ラジオ体操、歩行訓練等の運動を積極的に行い、主治医、訪問看護師に相談しながら便秘防止に取り組み支援している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	一人ひとりの気持ちや、今までの生活歴、入居者様本人の希望に合わせて対応行い、入浴を拒む方には、タイミングを見て再度声掛けを行ったり、声掛けの工夫等、職員全員で相談行いながら入って頂けるように支援行っている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の活動に体操やレクリエーション、お手伝いや掃除等を取り入れ、生活リズムを整え、良眠していただけるよう支援行っている。夜間眠れない入居者様に対しては、職員とお茶を飲みながらお話したり、安心して頂けるよう配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居時に家族様に薬の説明書を提供して頂き、服薬の目的・副作用について主治医から情報を頂き、職員や家族様がいつでも閲覧出来る様にしている。状態変化があれば主治医に相談、報告する。誤薬を防ぐ為に服薬時、職員のダブルチェックにて入居者の名前、日付を職員が呼んでから服用していただいている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	得意分野や生活歴、出来る事と出来ない事等、入居者様の関わりの中や、家族様との情報交換の中で理解し、本人様の出来そうな事を行って頂いている。感謝の言葉を忘れず声掛け、やりがいを持っていただけるように支援している。外出や行事参加の機会を作り、気分転換の支援を行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一人ひとりの楽しみや習慣に合わせて、ドライブ、買い物、花見、外出、ゴミ出しなど積極的に戸外に出る機会を作っている。他の事業所へも遊びにおじゃましたりして気分転換行っている。		



あいの里 2階

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居者が金銭貴重品を持たないようにしている。買い物時は立替金として、家族様に利用内容報告し精算して頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族様や入居者様の希望があれば、電話や手紙のやり取りができる体制にある。知人や友人の方に関しては、家族様に相談行ってから電話や手紙していただいています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に合った飾り作りを入居者様と考えながらおこなったり、ベランダでの季節の野菜や花作り、花見などの外出の機会を作り、季節を感じて頂けるように支援している。使いやすい物品、生活感のある物を上手く利用しながら暮らしの場を整えている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにソファ、畳を配置し、居心地の良い空間作り、職員が入居者様の間に入り、良い関係作りのお手伝いを行っています。独りになりたい入居者様に対しては、ソファ等の配置を変え、少し離れた所で一人になれる場所作りをしています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	写真やタンスなど入居者様が安らぎを得られるような本人になじみのある道具を持ってきて頂けるよう、家族様に理解して頂き協力を得て、入居者様に安心して生活して頂けるように支援しています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	日々の入居者様との関わりの中で気づき、入居者様本人の不安などの情報を職員間で共有。不安材料を取り除けるように家族様や職員で相談行い環境設備に努めたり、支援に繋げている。		